

障害者自立支援法違憲訴訟団企画・主催

2021.9.8 オンラインシンポジウム

自助の強要は人権を脅かす！ 国は基本合意を再確認し、骨格提言の実現を

日時 2021 年 9 月 8 日（水）13 時半～16 時半

ズームウェビナー

参加費無料

◎「自助・共助」を施策方針として表明する国の姿勢の危険性・問題点を、具体的な事例を通して明らかにし、基本合意に照らして人権保障のあるべき姿を考えます。

【プログラム】

13 時 ズームへのアクセス開始

司会 斎藤なを子（めざす会）・白井誠一郎（DPI 日本会議）

13 時半開始

○主催者あいさつ 竹下義樹（自立支援法違憲訴訟弁護団長）

○連帯あいさつ ひさまつみつじ 久松三二（全日本ろうあ連盟常任理事・事務局長）
同連盟より倉野事務所長同席

13 時 40 分

パネルディスカッション「自助の強要は人権を脅かす」

コーディネーター 藤井克徳（めざす会世話人）・^{こくふ}國府朋江（弁護士）

パネラー

- ① 小林さゆり（長野介護保障訴訟元原告）「自助・共助と闘って」
- ② 藤岡 ^{つよし}毅（弁護士。自立支援法訴訟弁護団事務局長・長野介護保障訴訟弁護団）
「長野介護保障事件を通して自助・共助の強要の危険性を考える」
- ③ ^{よしざき まさお}吉祥眞佐緒（一般社団法人エープラス代表理事：DV 被害女性の自立支援団体）
- ④ ^{しんじ}上野 眞治（生活保護生活者への自助圧力・大阪生活保護訴訟原告）
- ⑤ ^{あまかい まさかつ}天海 正克（65 歳問題訴訟原告）
- ⑥ 新井たかね（自立支援法訴訟原告補佐人）

・指定発言 ^{たみ やわたる}民谷 渉 弁護士「電動車いす訴訟」京都地裁勝訴判決報告

・パネラー討議とまとめ

アピール

閉会あいさつ 太田修平（めざす会事務局長）

16 時半 終了

*最終ページに文字通訳の QR コードがあります。

レジュメ①

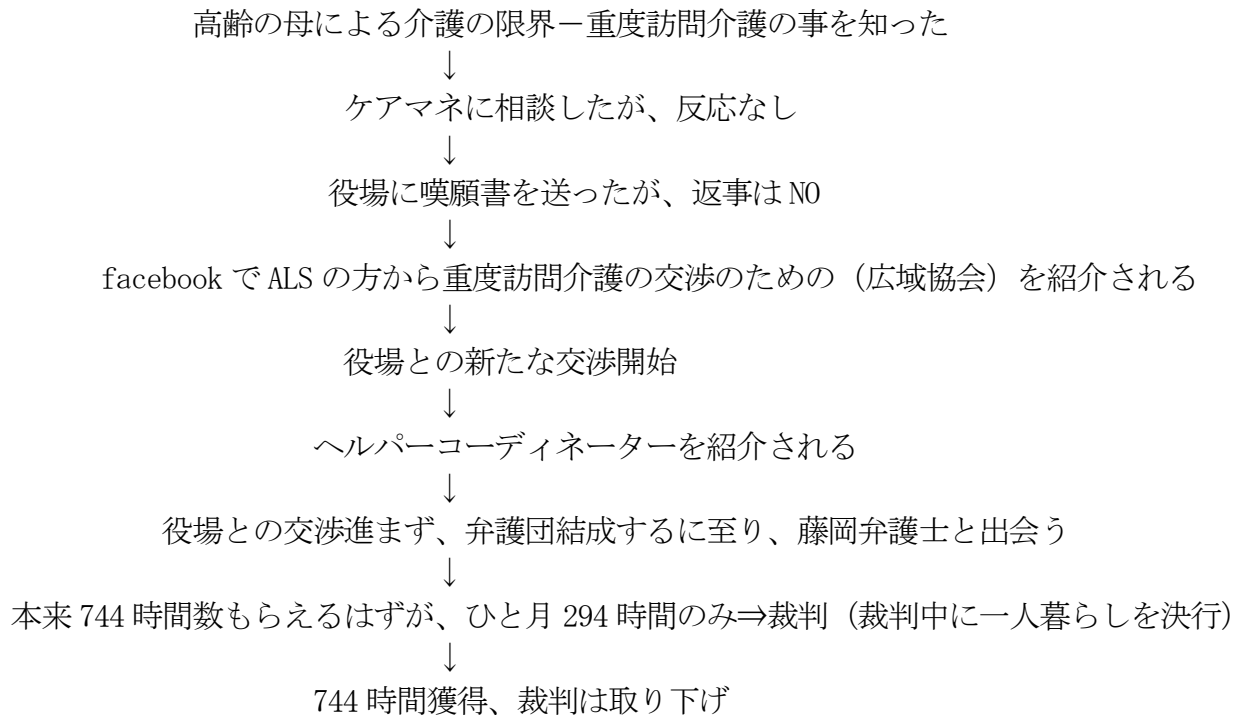
私の体験

小林さゆり（ALS 患者・長野介護保障訴訟元原告）

◎現在

重度訪問介護制度を利用…自分で意思決定し、からだは自由にならなくても自由な生活

◎経過



◎制度の活用で、家族介護の負担が減り、他人介護で生活でき、気管切開できた。

今現在も生きています。

＊ ＊ 小林さゆりさんの最近の様子の写真 ＊ ＊

ALS 協会長野県支部交流会に参加 〈右が小林さん〉 (2019 年)



意思伝達ツール「miyasuku」納品の日

(2019 年)



2020 年の誕生日



レジュメ ②

長野介護保障事件を通して自助・共助の強要の危険性を考える

2021年9月8日

A L S介護保障訴訟長野弁護団員

障害者自立支援法違憲訴訟全国弁護団事務局長 弁護士 藤岡 毅

長野介護保障事件の概要

A L S女性小林さゆりさんが役所（長野県信濃町）に重度訪問介護の支給を繰り返し要請するが町は1年8カ月間にわたり給付を拒否。

この自治体の拒否回答

小林さゆり 様

障害福祉課長 ●●●●

福祉の考え方の基本は、「自助」→「共助」→「公助」です。

まずは●●様自身が「自助」「互助」、次に「共助」としての介護保険。そしてあくまで補完的な役割として「公助」があります。ご要望に対する回答は、●●様自身やご家族がすべての役割を果たしていただいてからです。

2018年3月1日 生命の危機が迫りやむなく 長野地裁に1日24時間介護を
求める行政訴訟を起こした。

7月 4日 月744時間（1日24時間）支給決定

7月 6日 信濃町の町内にて引っ越して、独居生活開始

7月20日 原告訴訟取り下げで訴訟終了

【基本合意の意義】

2011年1月7日付 国と障害者自立支援法違憲訴訟団の基本合意の意義の確認

国家が障害福祉施策のあり方を「自己責任」を基調とする自立支援法が「障害者の人間としての尊厳を深く傷つけたことに対し、原告らをはじめとする障害者及びその家族に心から反省の意を表明するとともに、この反省を踏まえ、今後の施策の立案・実施に当たる。」と確認した公文書。

信濃町の対応は間違っていたと私たちは考える。

しかし、公務員として「自助・共助」をさかんに強調する国の基本方針に 忠実だったともいえる。一自治体の問題ではなくこの国の進路それ自体の問題。

基本合意の意義を再確認しよう！

DV 被害女性の自立支援

2021年9月8日
一般社団法人 エープラス
代表理事 よしぎま さお 吉祥真佐緒

1. DV とは基本的人権の強奪

- ・DV 防止法と現実の乖離
- ・DV は身体的暴力だけを指すものではない
- ・DV は家庭の中だけの話ではない

2. DV 被害の影響

- ・「見つかったら殺される」身を隠して生きなければならない被害者
- ・DV 被害が及ぼす心身の不調
- ・子どもへの影響と母子関係に及ぼす影響

3. DV 被害者の抱える困難

- ・「自分が相手を怒らせてしまった」「殴られていないから・・・」
- ・自己決定権を奪われ続けた被害者に待ち受ける大きな決断の連続
- ・「お母さんなんだから」「あなたにも悪いところが」という周囲の言葉
- ・自分自身のケアは自腹で(軽視される DV 被害の影響)

4. DV 被害者の自立に必要な支援とは

- ・DV につながる性別役割固定意識(ジェンダー)
- ・被害者も自分と同じ“対等人”“尊重されるべき大切な人”
- ・DV 被害者の自立とは
- ・声をあげられない DV 被害をどう可視化・社会化するのか

保護費切り下げ反対訴訟は「いのちのとりで」を守る！

生活保護基準引き下げ違憲訴訟 大阪原告 ^{うえの}上野 ^{しんじ}眞治
(引き下げアカン大阪の会)

◎生活保護費の引き下げ（2013年8月から3回に分けて）

670億円の生活扶助基準引き下げ。「物価偽装」までして強行

これは違憲であるとして、全国から1000人以上が提訴

いのちのとりである生活保護費を真っ先に切り下げるのは間違っている。

自助自立などの言葉は、本来の国の役割を投げ捨てるものである。

◎私について

脳性マヒ・9歳頃から“就学免除”で教育受けられず・47歳まで在宅生活＝母親の認知症と高齢で私の世話が出来なくなり、グループホームに入居（3年間）

一人暮らしをするには、生活保護制度を使うしかないが、車椅子で暮らせる住宅は、公営の福祉向け住宅のみで一般の借家は改装が必要となり、両親が私のために必死で貯金してくれたお金を借家の改装費にあてた。福祉事務所は、この先の非常時にと残した現金「数十万円」を収入認定し、使い切ってから保護を申請するようにと、それまでの支給を止めた。

障害者が働ける機会や情報を国が保障しているなら、生活保護に頼る割合は少なくなる。

だが、「自立を支援する」と言いながら、時代に合った収入源の確保も、人間らしい生活のための生活保護費の引き上げも、実現してこなかった。

◎2月22日・大阪地裁で「画期的な勝訴判決」

裁判長は、「国の裁量権の逸脱」と明言。

◎生活保護問題は、人の尊厳に関わる問題

「障がい者も有意義な人生を送ることを目標に」できる政治や政策に戻して欲しい。

レジュメ⑤

介護保険優先・65歳問題訴訟の高裁「逆転勝利」

天海訴訟 原告 あまが い 天海 まさかつ 正克

◎5月18日・千葉地裁で不当判決

障害者の私が65歳になった2014年7月13日、千葉市はすべての行政サービスを止め、「介護保険の申請」を何度も迫った。

だが、2つの制度の目的は異なるので申請を拒否した。

- ・「障害者福祉」は、障害者の社会参加が目的
- ・「介護保険」は、高齢者の安心・安全な生活の維持が目的

◎8月1日からすべての介護は打ち切られた

全額自己負担（月に14万円の利用料）がかかり、やむを得ず介護保険を申請

だが、泣き寝入りできないと2015年11月に千葉市を提訴

この判決は、

憲法をふみにじり、「基本合意」や厚生労働省通知や事務連絡を無視
自治体の「住民の福祉の増進を図る」責任を果たしてない

◎控訴・署名運動

障害者総合支援法第7条の介護保険優先原則の撤廃と利用料無料を実現させたい。

東京高裁での第1回口頭弁論10月13日（水）14時30分から

公正な判決を求める団体署名・個人署名・ネット署名のご協力をお願いします。

★署名用紙をダウンロードいただけます。（最終〆切9月20日）

<https://amagai65.iinaa.net/>

★ネット署名（個人）はこちらからお願いします。

<http://chng.it/LnbnTFfb>

レジュメ⑥

自助の強要は人権を脅かす！ — 国は基本合意を再確認し、骨格提言の実現を —

新井たかね（障害者自立支援法違憲訴訟原告補佐人）

◎基本合意文書

- ・2010年1月7日。原告代表の秋保喜美子さんと竹下義樹弁護士団長、長妻厚労大臣が調印
- ・「障害福祉施策の充実は、憲法等に基づく障害者の基本的人権の行使を支援するものであることを基本とする」と明記。

◎骨格提言

- ・2011年8月30日。「私たち抜きに私たちのことを決めないで」から新しい法律制定へ
- ・障害者制度改革推進会議、総合福祉部会のすべての会議を傍聴。委員のみなさんに資料を届け、私たちの願いを伝えた。

◎障害者総合福祉法（自立支援法を改称）

- ・すばらしい法の理念「障害者総合福祉法は、すべての人が尊重され、安心でき、そうした尊重と安心を与えてくれる社会のために自ら参加し・貢献しようという気持ちを育てる法律であり、また家族責任から社会責任への転換、家族依存からの脱却を図る法律である」。
- ・家族責任から社会責任への転換、家族依存からの脱却を図る法律である。
- ・だが、現状は…、
10年間、定期協議のたびに厚労省は「基本合意」「骨格提言」に基づいて施策を行うとしながら、進展なし。その上「自助・共助」を強調。自己責任の押し付け。

◎娘たちの最近の生活から考えさせられていること、総合支援法の見直しに向けての要望です。

- 1 定期協議のたびに訴えてきた報酬の日額払いについて
- 2 障害者支援施設で暮らす人たちの暮らしの改善について
- 3 選択できる多様な暮らしの場の早急な整備拡充について
- 4 かけがえのない人生を応援する福祉労働者の地位の向上について

UDトークによる字幕を配信します

UDTalk provides multiple language captions in real-time.

● UDトークについて About “UDTalk”



UDトークは音声認識を使って会話や講演などをリアルタイムに文字化できるアプリです。

This app can provides subtitles for your conversations and conferences by using speech recognition and automatic translation technology.

● アプリをインストールする Install app



「UDトーク」と検索してください。

Search on the stores with “UDTalk”

● アプリで字幕を見る For watching captions on the app

1. アプリを起動します。
Launch app.
2. 「トークに参加する」をタップします。
Tap “Join talk” item.
3. 右のQRコードにかざして読み取ります。
Capture QR code using UDTalk.



● 言語を選択する Select caption language

トーク画面左下の国旗マークを押すと翻訳が有効になります。

【メニュー → 翻訳・音声認識・読み上げの言語設定】で言語を選択してください。

Translation begins after turning ON on your left-bottom flag button.

If you want to change language, you open “Menu > Translation / Recognition / Reading Language Settings”.

★ Webブラウザで字幕を見る For watching captions on web browser

Webブラウザで下記のURLにアクセスすると、アプリがなくても字幕を見ることができます。

<https://live.udtalk.jp/c2649d7c9fa93d801beeb67e2a95254dcb56a956eba588fe4edc440766ea559dc>

パスコード: 2 0 2 1 0 9 0 8